

# XSL 8



## XSL8 ラウドスピーカー

XSL8は、小～中規模のSR用ラインアレイスピーカーです。またSL-Seriesの他のシステムのフィル、ディレイ用としても優れた役割を果たします。

3ウェイ設計のキャビネットは、フロント面に2つの8インチ・ネオジウムLFドライバー、サイド面に2つの6.5インチ・ネオジウムLFドライバー、1つのホーン型6.5インチMFドライバー、ウェーブガイド上にマウントされた2インチコイルを持つ2つの1インチスロート径HFコンプレッションドライバーからなります。各キャビネットはギャップが無く繋がりのよい周波数特性を生み出します。隣接するキャビネット間のスプレイ角度は、0°～14°の範囲で1°刻みで設定できます。

XSL8はd&bアンプの2チャンネルにより駆動され、フロントLFとパッシブクロスオーバーによるサイドLF、MF/HFセクションにそれぞれ専用のプロセッシング機能を提供します。

すべてのコンポーネントは、キャビネットの中心を軸に対称に配置され、左右対称の指向性パターンを実現しています。この設定により、非常にスムーズなクロスオーバー設計が可能となり、隣接する周波数帯域のオーバーラップが明確になるため、非常に一貫性のある正確な水平方向の指向性が得られます。

フロントとサイドの各LFドライバーの配置と的確な信号処理により、全周波数帯域にわたり均一な指向性が維持されています。

周波数特性は60Hzから18kHz以上までカバーしています。

キャビネットの筐体は射出成形（ABSポリウレタン）で、耐衝撃性と耐候性に優れた2K仕上げとなっています。キャビネットのフロントパネルとサイドパネルには、音響透過性と撥水性に優れた繊維で裏打ちされた剛性の高いメタルグリルが組み込まれています。各サイドパネルにはハンドルが付いており、後部にも2つのハンドルが付いています。

## d&b アンプ

d&b audioteknikのラウドスピーカーは、d&bのアンプとの組み合わせ専用に設計されています。d&bアンプは、d&bのシステムアプローチによるパフォーマンス、信頼性、寿命を実現するためのパワーサプライと包括的な制御・保護機能を備えています。XSL8の駆動にはD40アンプが推奨され、専用のセットアップを行うことで最大のパフォーマンスを得ることができます。また、D80アンプも使用可能です。

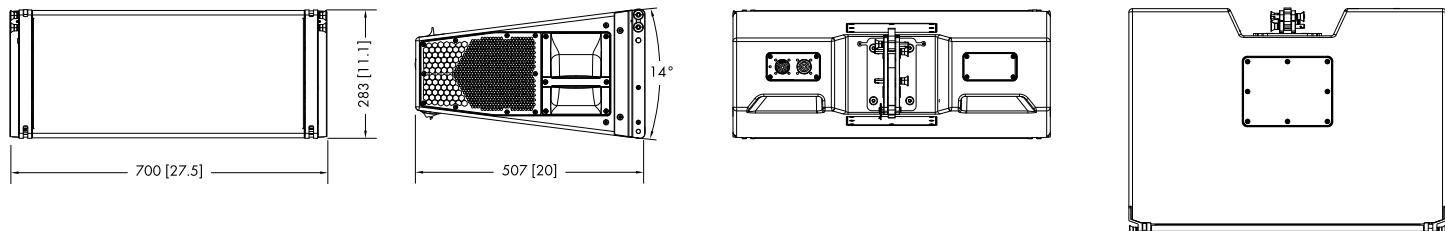
## システムデータ

周波数特性 (-5 dB 標準) .....	60 Hz - 18 kHz
周波数特性 (-5 dB カットモード) .....	90 Hz - 18 kHz
最大音圧レベル (1 m, 無響音場) .....	141 dB
(SPLmax: ブロードバンドシグナル IEC 60268)	

## スピーカーデータ

公称インピーダンス : フロント LF .....	8 オーム
公称インピーダンス : サイド LF/MF/HF .....	8 オーム
定格出力 : フロント LF (RMS/ピーク 10 ms) .....	400/1200 W
定格出力 : サイド LF/MF/HF (RMS/ピーク 10 ms) .....	300/850 W
公称指向角度 (水平) .....	80°
スプレイ角度設定 .....	0 ~ 14° (1° 刻み)
コンポーネント .....	2 × 8" フロント LF ドライバー 2 × 6.5" サイド LF ドライバー 1 × 6.5" MF ドライバー 2" コイル、2 × 1" スロート径のコンプレッションドライバー クロスオーバーネットワーク
コネクター .....	NLT4 F/M
ピン割当 .....	1+: フロントF+/1-: フロントLF- 2+: サイドLF/MF/HF+/2-: サイドLF/MF/HF-

# XSL 8



XSL8 尺寸 mm [inch]

## アプリケーション

- 小規模から中規模のSRアプリケーション
- コンサートホール
- 宗教施設
- 劇場
- クラブ、音楽ライブ会場

## 特長

- 独自のカーディオイド・テクノロジーにより全帯域で均一な指向性を達成
- 広帯域に渡る余裕のヘッドルーム
- コンプレッションモードとテンションモード、2種類のモードを持つ特許取得のリギングシステムにより、ツーリングカートから直接、短時間でアレイの設営が可能
- 2つのアンプチャンネルのみで駆動可能：片方のチャンネルがフロント面のLFドライバーを駆動し、もう片方のチャンネルがパッシブクロスオーバーネットワークによりサイド面のLFドライバーとMFドライバー、及び2つのHFドライバーを駆動
- ArrayProcessingにより、客席全体に渡り音量レベルと音色を最適化
- ArrayProcessingを必要としない短いアレイにおいては、二つのXSLユニットをつなげてLine/Arcモードで駆動させることが可能
- 効率に優れたケーブルシステムとアンプラックシステム